

必ずお読みください！

## 新型コロナウイルスワクチンについて知ってほしいこと

- ◆ 今回のワクチンの接種は、発症予防効果が認められ、感染症のまん延防止上、原則として接種を受ける「努力義務」が課せられていますが、強制ではありません。

次の「ワクチン接種の効果」と「副反応のリスク」について理解した上で、接種するか、接種しないか、自分自身で判断しましょう。

また、現在、何らかの病気で治療中の方や、体調など接種に不安のある方は、かかりつけ医にご相談ください。

ワクチン接種の効果	副反応のリスク
<p>・<b>新型コロナウイルスワクチンは、発症を防ぐ効果が認められています。</b></p> <p>今回の新型コロナウイルスワクチン（現行ではファイザー製のもの。）は、<u>2回の接種によって、95%の有効性で、発熱やせきなどの症状が出ること（発症）を防ぐ効果が認められています。</u></p> <p>（※インフルエンザワクチンの有効性は、約40～60%）</p> <p>・<b>多くの方に接種を受けていただくことにより、重症者を減らし、医療機関の負担を減らすことが期待されます。</b></p> <p>・<b>新型コロナウイルスワクチンの承認後も継続的に安全性を確認します。</b></p> <p>過去に例のない新技術を用いたワクチンであること等からも、これまでに明らかになっていない症状が出る可能性があります。国においては、延べ300万人の方々について、ワクチン接種後の症状等の調査を行い、ワクチンの安全性を継続して確認することとしています。</p> <p>（国は、予防接種との関連を疑う重篤な症状が発生した場合、予防接種法に基づき報告を受け、事例を収集し評価を行います。）</p>	<p>・<b>どんなワクチンでも、副反応が起こる可能性があります。</b></p> <p>一般的にワクチン接種後には、ワクチンが免疫をつけるための反応を起こすため、<u>接種部位の痛み、発熱、頭痛などの「副反応」が生じる可能性があります。</u>治療を要したり、障害が残るほどの副反応は、極めて稀ではありますが、ゼロではありません。今回のワクチン接種では、<u>接種部位の痛み、発熱、疲労・倦怠感が認められています。</u></p> <p><u>重大な副反応としては、アナフィラキシー（急性のアレルギー反応（*））があります。</u>通常30分以内に起こることが多いことから、接種後30分程度、接種施設でそのまま待機していただきます。（なお、アナフィラキシーが発症した場合であっても、早期に適切な処置を行うことにより、症状の重症化を回避することができるといわれているため、すぐに治療が行えるよう、接種医が医薬品等の準備をしています。）</p> <p>また、<u>予防接種により健康被害（病気になったり障害が残ったりすること）が生じた場合に、その健康被害が接種を受けたことによるものと国が認定したときは、予防接種法に基づく救済（医療費・障害年金等の給付）が受けられます。</u></p> <p>*アナフィラキシー：じんま疹、腹痛・嘔吐、息苦しさなどの症状が急に起こり、血圧や意識レベルの低下（呼びかけに反応しない）を伴うアレルギー反応</p>

周防大島町からの郵便に同封されている案内です。